

## <北の便りー1, 471ー>2017. 12. 27版

3360地区チェンライ RC パスト会長便り

北タイ支援の娘にも 24日、我が家のクリスマスに合わせて帰国した。帰国した私を待っていたのが、北タイの娘達にと可愛らしい柄の「ゆかた」と装飾小物だ。送り主は心優しい。髪留めあり、手鏡ありだ。更に荷物を紐解いたら「ゆかた」着の踊りにつきものの「うちわ」も数十枚添えられていた。「うちわ」の裏には、こよなく愛した郷土・甲府を愛でる作詞が書かれてある。その説明書きに「この世を去られた父の自作、自筆です」とある。その送り主は国際ロータリー2620地区甲斐ロータリークラブ会員で、ガバナー補佐もされた深澤由美子さんだ。ボランティア日本語教師として4年間教壇に立つヴィタヤコム高校がある。その学校の70%の生徒が極貧農家の子たちだ。同校で2月にミニ「JAPANDAY」開催奉仕をする。そのことを以前に、この<北の便り>に綴った。その支援を真剣に考え、手を差し伸べてくれたのが深澤さんだ。嬉しい。この支援で子供たちが「ゆかた」を着て、日本文化の「うちわ」を手にし、得意げに踊る姿が今から臉に浮かぶ。

